

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	R1.6.14	市政懇談会	外川目	農林部	農村林務課	シカ対策について	シカが増え農業、林業、様々な場面で悪影響を及ぼしている。早池峰山の高山植物も被害で苦慮していると聞いている。有害鳥獣対策について、新しい対策を講じてほしい。	<p>岩手県における農業被害はほぼニホンジカによるものと認識している。岩手県のシカによる農作物の被害額は平成29年度で約2億円、花巻市においては平成29年度は2,923万円、平成30年度は2,893万円ほどとなっている。</p> <p>花巻市では花巻市鳥獣被害防止計画を策定しており、これまで捕獲年間目標の750頭を平成30年度からは825頭に増頭した。この目標の達成に向けて、農林水産省の交付金を活用した県の「岩手県鳥獣被害防止総合支援事業」、及びそれを補完する市単独事業「緊急捕獲活動支援事業」により、市内の鳥獣被害防止対策実施隊により捕獲活動を行っていただいている。</p> <p>今年度県事業としては約449頭分の支援をいただくこととしており、市単独分は150頭分を予算化し、計599頭分(1頭当たり8,000円)の捕獲活動を支援する計画。市では効果的な捕獲を実施できる環境を整備するため、無線機やくくり罠を導入、また冬期間の捕獲環境の対策として林道の除雪を行っている。さらに、人材育成の面で免許取得に係る情報提供を行っているが、免許取得に対する支援は行っていない。罠免許を持った人へのサポート等、より効果的な取り組みを今後検討していく。</p> <p>電気柵の設置については、個人の場合2分の1補助(上限7万円)、3名以上の団体の場合4分の3補助(上限30万円)として支援している。</p> <p>さらには、環境省の個体数調整事業があり、県が猟友会に直接委託をし捕獲している。この事業で捕獲されたシカは平成29年度で市内191頭に上る。</p> <p>基本的に雪が少ないと捕獲量が少ないことに加え、暖冬のためシカも繁殖しやすいことから捕獲量としては足りていない。猟友会も高齢化が進み限界が来ていることから、くくり罠の免許をたくさんの方に取得していただくことについて、また、どういう対策をすれば増えるかについて考える必要がある。例えば講習受講者への支援等、地域の方々にも合った上で必要であれば9月か12月補正にて予算化することも可能である。</p>
2	R1.6.14	市政懇談会	外川目	建設部	都市政策課	大迫予約乗合バスについて ①	予約乗合バスについて、利用日が月・水・金曜日のみであるため、大迫の市日もその曜日に合わせたイベントを開催するようになったが、不便を感じている。このような状況を市ではどのように考えているか。また、スクールバスの一般混乗の利用状況についても伺いたい。	<p>大迫地域の予約乗合バスは、昨年10月に運行を開始し、利用者数は順調に増えている。運行日1日当たり約25人の方が利用、登録者数は5月末現在1,399名となっている。そのうち、外川目地区の登録者は521名、外川目地区の人口の約75%の方に登録いただいている状況。その一方で、外川目地区の方で実際に利用された人数は80名となっており、更なる利用をお願いしたい。</p> <p>利用者の傾向としては、約92%が60歳以上、約80%は女性、先行で一番多いのは大迫診療センター、続いてバスターミナルとなっている。</p> <p>利用したい時間の1時間前から1週間前まで予約可能であるが、大迫地域は約50%が当日の予約で占めている。石鳥谷や東和地域の当日の予約が33%であるのに比べ高い状況である。</p> <p>スクールバスの一般混乗は、今年1月から実施しており、利用実績は6路線中1月から4月までの合計で、登校便の389便に乗車した人数が50人、1便当たり換算0.13人の利用。下校便では381便中乗車人数が17人、1便当たり0.04人の利用となっている。</p> <p>6路線中1番利用が多い路線は内川目地区の岳・久出内線で、67便に対し29人の乗車で1便当たり0.43人、外川目地区を運行する3路線中では、堅沢線の登校便64便に9人乗車で1便当たり0.11人の利用状況となっている。</p>

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
3	R1.6.14	市政懇談会	外川目	建設部	都市政策課	大迫予約乗合バスについて②	<p>まず沢地区では、一人暮らしで車のない方は大変重宝しているが、冬場の利用について問題があった。</p> <p>降雪時期となり、「道幅が狭く、タクシーが四駆ではないため上まで行くことができないことから、乗る際は下の公民館まで降りてきてください」という旨の通知が登録した人だけにあった。それからしばらくして、上部にある2軒の方から家の近くまで来てくれるようになったという連絡があった。</p> <p>もっと早目に連絡をいただければ対策が取れたのではないかと思われる。また、今年も冬が来るわけだが、このような通知を出す際は登録の有無を問わずその路線の地域全体に連絡をいただきたい。</p>	<p>該当者のみへの通知だけではなく、地区の皆様へも当初の説明と変更した旨説明をするべきであった。お詫び申し上げます。</p>
4	R1.6.14	市政懇談会	外川目	建設部	都市政策課	大迫予約乗合バスについて③	<p>まず沢地区以外の地区でも冬期間運行できない地域があったが、今年の冬はどのようになるか。運行できない場合もあるものか。</p>	<p>狄川地区のことと思われるが、その節は大変ご迷惑をお掛けした。お詫び申し上げます。</p> <p>道路については、事業者も安全を第一に考えているため当初は進入不可と判断したものであったと思うが、そうすると路線まで非常に遠くなってしまう路線であったことから、事業者に対し何とかできないか再度調整をさせていただき、最終的には冬場も運行する形にさせていただいたものである。ただ、事業者からも条件があり、両サイドの道路のポールを増やし道路が分かるようにすることや除雪対応をしっかりとすること、道路脇の立木の枝を切る等等、この点については市で対応することで事業者からの了解を得られ実現したものである。</p> <p>除雪を優先的にしたとしても事業者から、やはり無理と言われることも場合によってはありうるとされる。市としては雪の状況を見ながらできることをやっていく。</p>
5	R1.6.14	市政懇談会	外川目	消防本部	総務課	消防団再編計画について①	<p>消防団再編計画について、8月には地域住民を対象に説明会が予定されているが、その概要について伺いたい。</p>	<p>消防団の組織再編は、消防団が主体となり計画を策定し、当市ではそれをバックアップすることを基本として取り組んでいる。消防団長を委員長とし、平成25年10月から花巻消防団の組織等見直し委員会を立ち上げ、これまで15回の検討を重ねてきた。その中で、昨年7月に各分団を対象に実施した部の再編に関する調査の結果に基づき消防団の再編計画の素案を作成し、本年2月に有識者である元消防団長に検討いただき再編計画(案)を作成した。</p> <p>少子高齢化や被雇用者の増加、社会情勢の変化に伴い、消防団の確保が困難な状況下ですぐにでも部の再編を希望するという地区から再編を推進する計画ではあるが、地区住民と合意形成を図った上で地区毎の実情を踏まえた再編計画にする。そのために全分団を対象に地区説明会を実施する。外川目地区については8月8日を予定しており、その結果を踏まえ成案とするもの。</p> <p>外川目地区を管轄する第10分団は、5年以内に班を廃止し各部に統合するとの調査結果であったことから、平成30年4月現在61名の団員が在籍しているが5年後に統廃合が進むと56名となる見込み。本市としては、地区の理解を得ながら持続可能な消防団を維持するため、部の再編を進めている消防団としての方針について今後も引き続き支援していく。</p>
6	R1.6.14	市政懇談会	外川目	消防本部	総務課	消防団再編計画について②	<p>再編計画によると、今後5年間で第2班をなくする予定と伺ったが、屯所はどうするのか。どう活用するのか。</p>	<p>10分団には4部9班があり、屯所のほかに屯所機械置場もある。仮に統廃合が進み班を集約する機運が高まった場合は、建物の存続についても地元の方々と話し合いを進めながら検討していく。</p>
7	R1.6.14	市政懇談会	外川目	消防本部	総務課	消防団再編計画について③	<p>私は10分団の分団長であるが、当分団には4部、車は5台あるが、積載車の配置はどうなるのか。</p>	<p>まだそこまでは議論されておらず計画の段階である。仮に4部となり1台余剰が出る場合は、統廃合が進んだ結果、必要とする分団へ消防車両を配置換えし運用していきたいと考えている。</p>

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
8	R1.6.14	市政懇談会	外川目	消防本部	総務課	消防団再編計画について④	10分団の車のうち1台は、遠野市塚付近の屯所のものであるが、有事の際には遠野市宮守地区の火事にも出動が可能であることから、有効活用させてほしい。過去にも宮守達曽部地区の火災の際に出動した事例もあった。	こういったご意見も8月の説明会の際に出していただき、検討した上で方向性を見出していきたく考えている。
9	R1.6.14	市政懇談会	外川目	消防本部	総務課	消防団再編計画について⑤	8月の地域説明会では、どの範囲の方々に説明するのか。また、機能別団員が昨年過去最高となっていると聞いた。自分も機能別団員であり増員を希望するが、市はどのように考えているか。	説明会の個別案内は地元の市議会議員や区長、コミュニティ会議の代表者等に案内する予定。一般市民の皆様にも広く参加していただきたい。 花巻市の機能別団員は153人。10分団は8名、機能別団員の増員については、消防団の幹部会議に諮り検討し決定するものである。同じ意見を他の分団からもいただいているが、逆に基本団員を増やすことや組織を維持していくことを重視する意見等様々である。ご意見は団幹部にお伝えする。
10	R1.6.14	市政懇談会	外川目	教育部	文化財課	カモシカの対策について	カモシカについて、文化財であり法律で保護されているが、実態とすれば増えているのではないかと思う。農作物の被害が後を絶たないため、国策になるかどうかは分からないが間引とか調整していただくような対策はないものか。	カモシカが年々増えていることは県の自然保護課へ情報等は入れているが、どのくらい増えているのか確認したい。 県にお願いし、実態調査をしてみる時期ではないかと感じている。たくさん増えて被害をもたらしているが、具体的な調査をし、どれくらい増えているのか数字で表すことができないと環境省への要望も難しい。
11	R1.6.14	市政懇談会	外川目	地域振興部	定住推進課	子育て世帯住宅支援について	子育て世帯住宅支援制度について、息子の勤務地は北上方面であるが、北湯川地区に住居取得しようとした際にこの制度を受けようとしたが、地域外とのことで受けられなかった。人口流出を止めるためのものであるとするならば、もう少し融通性を持たせてほしい。	この制度は、1市3町の中心部と親世帯と同じ地域に住居を取得する際に適用となるもの。昨年4月から始まり大変好評を得ており、今年は当初予算で足りず6月補正で70件2,100万円を増額した。 市としては、中心市街地を元気にしたいと思いと、親世帯と同じ地域に住んでいただきたいという趣旨で支援をさせていただいており、他市に住もうとした方を花巻市に取り込もうとするものではない。趣旨をご理解いただきたい。
1	R1.6.20	市政懇談会	八重畑	地域振興部 石鳥谷総合支所	地域づくり課 石鳥谷総合支所 地域振興課地域支援室	これからも地域自治を維持していくための課題解決について①	昨年度の市政懇談会では、開拓地区の現状を例に挙げ、行政区再編や役員の成り手不足について取り上げた。市の回答は「市全体での行政区再編の計画はない。持続可能な地域自治を支える仕組みを地域と共に考えて参りたい」との事で、解決に向けた具体策は見えなかった。この問題を開拓地区だけの課題とは捉えず、八重畑地区全体がこれから直面していくものと考え、八重畑という地域を守っていくには何をすべきなのか、どうあるべきかを住民同士で話し合う場が必要と感じた。そこで今年度、コミュニティの新規事業として、八重畑の将来を検討するワークショップを開催する予定である。市のサポート事業を活用しながら、持続可能な地域自治について住民の意見を集約していく予定である。 一方、市でも昨年度「地域自治に関する懇談会」を開催し、今後の地域自治の在り方について意見交換を行ったようだが、それを踏まえて、本年度は課題解決に向けてどのような取り組みを計画しているのか。参考としたいので教えていただきたい。	昨年度、開拓地区から世帯数が減少し集落機能を維持していく事が非常に大変であること、特に市から行政区長を通じて推薦をお願いしている役割が世帯数や人口が少ないために同じ方がいくつもやらなくてはいけない状況になっているという開拓地区のお話を頂戴した。全国的にも人口減少に伴い、地域自治を維持していく困難さが大きな課題となっていることから、昨年度、今後の地域自治の仕組みについて、市民の皆さんと考えていく場の一つとして、地域自治に関する懇談会を3回程開いた。懇談会は、岩手大学農学部の中野純一先生を座長、コミュニティアドバイザーの役重眞喜子さんを副座長とし、コミュニティ会議の会長、行政区長、自治公民館長、福祉関係や地域づくりに携わっている方々の総勢15名の方々に話を伺った。 その中で、1点目は、今の市の地域自治の仕組みで課題として出されたことは、地域事業への参加者の固定化、役職の肩書による充て職が多い、役員の担い手が不足しているなど。また、コミュニティ会議がその地域の集約をしているが、市や県からの縦割りによる様々な団体や取り組みに重複している部分がある事や人口減少や就業構造の変化で地域課題が多様化している事、さらに社会に対する考え方の多様化もあり、地域づくりや地域自治が重荷になっているとの話をされた。2点目は、地域づくり活動に女性や若い世代の参加の少なさ、地域づくり交付金の活用において地域全体のニーズや創意工夫を反映させる難しさを感じているとの話があった。3点目は、コミュニティ会議のほか各種団体があるが、それら団体との連携の難しさ。例えば、高齢者の総合支援事業が中々進んでいない現状について、コミュニティ会議のみならず地域の団体や行政区、あるいは市・行政の方々を集めミーティングする場がない、人がいない中で合理的に話をする事が難しいとのこと。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	R1.6.20	市政懇談会	八重畑	地域振興部 石鳥谷総合支所	地域づくり課 石鳥谷総合支所 地域振興課地域 支援室	これからも地域自治を維持し ていくための課題解決につ いて①	<p>昨年度の市政懇談会では、開拓地区の現状を例に挙げ、行政区再編や 役員の成り手不足について取り上げた。市の回答は「市全体での行政 区再編の計画はない。持続可能な地域自治を支える仕組みを地域と共 に考えて参りたい」との事で、解決に向けた具体策は見えなかった。こ の問題を開拓地区だけの課題とは捉えず、八重畑地区全体がこれから 直面していくものと考え、八重畑という地域を守っていくには何をすべ きなのか、どうあるべきかを住民同士で話し合う場が必要と感じた。そこ で今年度、コミュニティの新規事業として、八重畑の将来を検討するワー クショップを開催する予定である。市のサポート事業を活用しながら、持 続可能な地域自治について住民の意見を集約していく予定である。</p> <p>一方、市でも昨年度「地域自治に関する懇談会」を開催し、今後の地 域自治の在り方について意見交換を行ったようだが、それを踏まえて、 本年度は課題解決に向けてどのような取り組みを計画しているのか。参 考としたいので教えていただきたい。</p>	<p>これらの意見を基にしながら今後の方向性として挙げられたのが、コ ミュニティ会議は行政区という地域コミュニティをもっと身軽にし、地域に お願いしている役割の見直しやコミュニティ会議等の団体との事業連携 について考えようということ。それから若い人や女性の考え方も取り入 れる工夫をしようということ。また、行政との連携の充実という点では、 人口や世帯数が減る中で課題は深刻化しているの、地域まかせでは なく、一堂にテーブルについて話をする場を持った方が良いという話が 出た。</p> <p>そこで、コミュニティをもっと身軽にするために、市が地域にお願いし ている役割や各種団体の実態を調査し、コミュニティ会議との関わりを調 べる事や若い世代や女性がコミュニティ会議の活動に参加しやすい仕 組み、「創意」を育む仕組みについて検討したいと考えている。以上が 昨年度の懇談会の概要であり、本年度市が取り組もうとしている内容で ある。</p> <p>昨年度の懇談会では、開拓地区(八重畑第12行政区)の世帯数は住 民登録上8世帯(現在7世帯)で実際にそこに暮らしている方がいる世 帯は3世帯だと情報提供をいただいた。</p> <p>市全体における地域自治については地域振興部長が申し上げたとお り、八重畑地区の取り組みについては、八重畑コミュニティ協議会で 「地域づくりサポート事業」に手を挙げていただいているので、ワー クショップの方式を取り入れながら地域の皆さんが集まった中で課題の共 通認識を図り、皆さんで話し合いをしていただく予定である。</p> <p>早速、来月に向けて企画をしていくので、どういう形で話し合いの場を つくっていくかを、コミュニティ会議の皆さんと話をさせていただく。実際 にアドバイスするのは、中間支援組織として地域づくりを手掛けている 結学舎という法人。この中間支援組織のアドバイザーと地域支援室の 職員が集まり、話し合いの企画をし、八重畑に馴染む形での運営を考 え、ワークショップを何回か重ねていただく。具体については、後日打ち 合わせをさせていただくので、皆さんにご協力をいただきたい。</p>
2	R1.6.20	市政懇談会	八重畑	地域振興部 石鳥谷総合支所	地域づくり課 石鳥谷総合支所 地域振興課地域 支援室	これからも地域自治を維持し ていくための課題解決につ いて②	<p>八重畑コミュニティ協議会の事務局をしており、八重畑でワークショッ プを開催する発案に携わった1人です。7月の企画に向けて話し合うと の事ですが、ワークショップの進め方のイメージが分からないほか、区 長・公民館長等の役職を持っている方だけでなく若い世代の人にも参加 してもらいたいと考えたりするが、正直なところ開催に向けて不安しか ない状態。昨年、市で開催した地域自治に関するワークショップにつ いて、導入の経緯や内容、ワークショップの流れなどを説明していただき たい。</p>	<p>昨年度、市全体として開催した3回の懇談会については、結論を出す 事よりも、意見を引き出す事が大事なので、例えば1回目には、合併後 12年経過したが、この12年で私達の地域づくりはどこまで来たのかとい う投げ掛けから始め、その中で出てきた意見を整理しながら、次に繋げ ていく形とした。</p> <p>不安があるのは当然だが、事前に打合せをしながら、中間支援組織 が意見を引き出すためのヒントを見つけるし、その作業をコミュニティの 方にお願いするものではないので安心していただきたい。</p> <p>大事なのは形式に拘らず、やってみることであり、チャンスにもなる。 例えば、花巻市西端で人口が減っている笹間地区では、若手企画会議 という若い人たちの発想を取り出すコンセプトで開催し、今もその若手会 議が続いており、自ら交付金を使い事業を行うところまで発展した。この ようなチャンスを八重畑地区にも活かしたいので、十分に打ち合わせを しながら、意見を沢山引き出せる様にやっていきたいと考えている。</p>

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
2	R1.6.20	市政懇談会	八重畑	地域振興部 石鳥谷総合支所	地域づくり課 石鳥谷総合支所 地域振興課地域 支援室	これからも地域自治を維持し ていくための課題解決につい て②	八重畑コミュニティ協議会の事務局をしており、八重畑でワークショップを開催する発案に携わった1人です。7月の企画に向けて話し合うとの事ですが、ワークショップの進め方のイメージが分からないほか、区長・公民館長等の役職を持っている方だけでなく若い世代の人にも参加してもらいたいと考えたりするが、正直なところ開催に向けて不安しかない状態。昨年、市で開催した地域自治に関するワークショップについて、導入の経緯や内容、ワークショップの流れなどを説明していただきたい。	ワークショップのやり方は、数人のグループをいくつか作り、コーディネーターが提示したテーマや質問に対してグループ内で各自の意見を出し合い、発表していくものだが、事務局の方がある方向に動かさなくてはいけないという必要はなく、住民の方が好き勝手に意見を言えば、皆さんの考え方が見えてくると思うので、心配は要らない。予めコーディネーターとどのような聞き方をしたらよいかを十分に検討してもらいたい。 開拓地区が3世帯しかなく、普通に考えれば行政区として維持が難しく、統合する事になると思うが、統合できない理由等がワークショップで出てくるのか疑問はある。開拓地区と隣接区の方々で話し合わなければいけないと感じる。 地域振興部長が話した地域の団体や役割等については、必要が無いものや統合できるものを洗い出し提案し、充て職を減らすことを今年の課題としている。なお、コミュニティ会議と各団体の関係については、組織のあり方や地域づくり交付金の使い方は相当程度地域に委ねている形なので、市から一方的にはなく話し合っていく必要がある。
3	R1.6.20	市政懇談会	八重畑	石鳥谷総合支所	石鳥谷総合支所 地域振興課	道の駅「石鳥谷」再編事業の これからについて	道の駅「石鳥谷」は、30周年のリニューアルオープンに向けて施設再編が進められていると思うが、全体的なイメージが分からないので、本年度の計画について教えていただきたい。	道の駅「石鳥谷」については、皆さんも利用されてみて課題があることはお気付きのことと思う。例えば、トイレの古さ、特にトラック用だが駐車スペースの不足、国道からの見通しも利かない為に盛岡方面から来ると入口が分からずに信号機まで通り過ぎるなど。これらを解決する為に市と国と一緒に考え、道の駅の専門家である「日本みち研究所」のコンサルタントのアイデアも取り入れて、再編整備の基本構想・計画を5月29日に策定した。 再編整備の内容だが、ハード面は、国道側の駐車場を国が北側に100mほど拡張予定で、現状はまだ雑木林だが、3月に市が用地を先行取得しており、後で国に譲りながら駐車場を整備してもらう事としている。さらに、国ではトイレとその隣の情報センターが古くなっているため、トイレと情報館を合築しながら南部杜氏伝承館の位置に建替える予定。市は、りんどう亭大食堂の北側に南部杜氏伝承館を曳家し、道の駅全体の間口を広くする。結果、酒匠館・食堂・南部杜氏伝承館がコの字型のモール状になるので、その間に広場を設ける予定。 建物の中身についても、リニューアルを色々考えている。例えば、広くする駐車場から各施設に入り易いように玄関を西側に増やしたり、施設間を行き来できる連絡通路も設けることを考えている。 南部杜氏伝承館は酒樽等の展示が中心となっているが、展示の見直しのほかに南部杜氏が造った全国のお酒を試飲できる様にしながら、お土産にお酒を購入していただけるようにしたいと考えている。南部杜氏協会からご意見やご協力をいただきながらこれから考えていくところである。 食堂について、通常用と団体や宴会用の2ヶ所に分かれているが、大食堂が昼間あまり使われていないので、大きい方に集約しながら様々なニーズに対応させたい。また、物産関係も、参加する農家の減少から産直の品揃えが難しくなっている現状のほか、酒匠館の中でお酒・お菓子を扱うレジと別棟の産直のレジが分かれていて効率が良くないという利用者の声も多く、1カ所にまとめたたいと考えている。それぞれに運営団体があるので今後話し合いながら進めていく。 今年度は、市は取得した土地の木の伐採を進め、国では並行してそこを駐車場にする実施設計を進めていくということである。今の構想・計画では、30周年の節目になる令和5年を目標に進めているができるだけ早くやりたい。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
3	R1.6.20	市政懇談会	八重畑	石鳥谷総合支所	石鳥谷総合支所 地域振興課	道の駅「石鳥谷」再編事業の これからについて	道の駅「石鳥谷」は、30周年のリニューアルオープンに向けて施設再編が進められていると思うが、全体的なイメージが分からないので、本年度の計画について教えていただきたい。	市としては、30周年には拘らず早い方が良いので、できるだけ早くしたいと考えている。 実は、当初は南部杜氏伝承館の中を変える構想だったが、日本みち研究所に話をしたところ、全体的な見直しをしようと動き出した。3月になり国の国土強靱化の関係で補正予算が付き、それで一気に進み始めたので、あっという間にハードについては構想が固まってきたというのが実態である。 南部杜氏伝承館の中身をどうするか、あるいは売店・産直の運営、食堂をどのようにするかという事については、石鳥谷の方々に意見を聞いていきたい。令和5年度であれば十分に時間はあるが、国の方のスピードが少し早くなった気がするので、国の意向を聞きタイミングを図った上で、できるだけ話し合いをさせていただき皆さんのご意見を聞いた上で良いものを作っていきたいというのが今の思いである。